法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

【図書紹介】『外国人労働者の循環労働と文化の仲介 ： 「ブリッジ人材」と多文化共生』　村田晶子著／明石書店　200ページ 3,000円＋税　2020年2月発行

村田, 晶子

(出版者 / Publisher)
法政大学グローバル教育センター日本語教育プログラム
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
Multicultural Societies and Language Education / 多文化社会と言語教育
(巻 / Volume)
1
(開始ページ / Start Page)
66
(終了ページ / End Page)
66
(発行年 / Year)
2021-03-31
(URL)
https://doi.org/10.50921/jlp.1.0_66

【図書紹介】

『外国人労働者の循環労働と文化の仲介―「ブリッジ人材」と多文化共生―』

村田晶子著／明石書店
200 ページ　3,000 円＋税
2020 年 2 月発行

コロナ禍により外国人労働者を取り巻く労働環境は様変わりし、仕事を失い、苦境に立たされる人々が増加している。こうした状況は 2008 年のリーマンショックにおいても見られたもので、当時も大量の外国人労働者が解雇され、帰国を余儀なくされた人々も少なくなかった。外国人労働者の日本での定住への道のりは、かつてよりも開かれつつあるものの、依然として非正規雇用の外国人労働者は、不況時のバッファ（雇用の調整弁）としての役割を背負わされており、今後の外国人労働者の受け入れを考えていく上で、非正規の外国人労働者の就労状況の研究を蓄積し、彼らのためのセーフティーネットを検討していくことが求められている。これまでの研究の多くは、技能実習生の就労問題に光をあてている一方で、高度外国人材（専門職に就く外国人労働者）の研究は十分に蓄積されてこなかった。

本書では、こうしたことを踏まえて期限付きの仕事に就く高度外国人材の抱える問題に光をあてている。本書は、執筆者のコロンビア大学の博士論文をベースとして、日本で働くインド人 IT エンジニアたちに焦点をあて、彼らの国際移動、日本でのキャリア構築、就労環境・生活環境の問題について分析している。

加えて、本書の大きな特色は、こうした労働者たちの「ブリッジ人材」としての可能性に光をあてていることにあり、インド人 IT エンジニアの二国間の組織、職場、集住地域をつないだ仲介活動（ブリッジング）の実態とその意義を明らかにしている。特に新たに執筆した第 3 章においては、2011 年当時の執筆者の調査協力者であったインド企業の元社員がその後の約 10 年間に活動の範囲を広げ、2019 年に江戸川区議会の議員になるまでの経緯を追っており、地域の外国人コミュニティーと地域住民をつなぐキーパーソンとしての外国人材の役割とその意義を明らかにしている点で、移民問題や外国人の就労問題に関わる研究者、実務者だけでなく、言語教育関係者、異文化間教育に携わる教育者、研究者にとっても興味深い内容になっているのではないかと考える。

本書は 3 章で構成され、第 1 章ではインドの IT エンジニア達の国際移動と日本での就労の流れを明らかにするとともに、リーマンショック期における労働需要の減少によって、エンジニア達が労働市場から切り離されていく過程を描いており、二国間をつなぐ役割を担う高度人材達の循環労働が生み出す光と影を明らかにしている。

第 2 章ではエンジニア達の職場を分析し、外国人労働者を取り巻く労働環境の問題を分析すると同時に、ブリッジエンジニア達（仲介活動を行うエンジニア達）がそうした環境において二つの組織を仲介するためにどのような橋渡しを行っているのかを明らかにしている。

第 3 章では、エンジニア達の地域住民としての仲介活動を分析し、インド企業の IT エンジニアが一時的な滞在者として地域に住むことが生み出す微妙な軋轢を分析するとともに、元エンジニアが外国人コミュニティーと地域をどのようにつないだのかを住民集会の分析から明らかにしている。そして本書の結びでは、ブリッジ人材の職場や生活における橋渡しをまとめるとともに、そうした橋渡し役となることができる人材を育成することの重要性を指摘している。

（紹介者　村田晶子）